



(第38号)

発行所 〒260-0853

千葉市中央区葛城1-5-2

県立千葉高等学校同窓会

印刷所 千葉市中央区都町1-13-16

TEL. 043-233-9671

有限会社 プリントピア

我が母校の発展を期して



同窓会会長 霜 礼次郎
(昭和三十一年卒)

百二十五周年記念事業の出发点で、私は、清水元教育長に呼ばれ、「実は、中高一貫教育の計画があがっているが、千葉高にやつてもらおうかと思っているの、同窓会の意向を伺いたい。」と言われ、私は即座に「百二十五周年事業の一環として、大賛成です。」と述べました。元大野校長先生が、その実現に向けて、大変な努力をされ、前村山校長先生、そして現江崎校長先生に

なつて、実現の運びとなりました。丁度、創立百三十周年の事に、我が千葉高は、新たに千葉中学校を包含し、千葉県は基より、日本でも注目される母校になりました。しかし、千葉県の経済は逼迫しており、校舎ができぬ間に発車したという、最も危急される状況下にありました。先輩の県会議員の努力によって、多くの先輩方の署名を集め、県議会に

誓願をした結果、旧テニスコートに、体育館と校舎が建設される運びとなり、二年後の三学年揃った年に完成の運びとなりました。私は、同窓会会長として、肩の荷を下ろし、歴代の校長先生のご努力に、心より感謝している次第です。

この、めでたい出来事に、同窓会として、どのような支援をするか、学校側と協力して、その対応を議論した結果、多目的のセミナーハウスを、建設してはどうかと言う案も浮上しました。丁度時期悪く、世界的不況に見舞われ、百二十五周年記念事業で、寄付金を同窓生にご負担を頂いた直後で、十分な支援が出来ないだろうと考え、臨時理事会を開催してご意見を伺いその結果、セミナーハウスの建設に

関して、積極的なご意見をきく事はできませんでした。以上の如く、我が母校の中高一貫教育の環境のあらまし

について、述べてきましたが、今後目的達成のための、一つの手段として、同窓会支部の充実発展を期す事が、不可欠と考えます。その最初の仕事として、長年、懸案となつて、母校の存在する千葉市に、支部が結成されていない事に鑑み、仮称「千葉葛城会」の結成を、果たさなければならぬと考えます。

同窓生の皆様方の、更なるご理解とご協力を賜る次第です。



千葉高図書館

中高一貫教育の

今後に期待すること



校長 江崎 俊夫

日頃皆様には様々な形で本校に対して御支援・御協力を賜り心から感謝申し上げます。

特に中高一貫教育を始めるに当たり同窓会の方々には大変お世話になりました。お陰をもちまして新体育館・教室棟が来年度に着工される予定となりました。心から御礼申し上げます。

すでに昨春のことになりましたが、まさか同窓でもない私が千葉高にお世話になるとは思いもよりませんでした。私は長年、県教育委員会で中高一貫教育をはじめとする県立高校の再編計画に携わってきましたので、「お前が責任を取れ」ということなのだと思ひ

分勝手な解釈をしております。何卒よろしくお願いいたします。

さて、皆様に御心配をかけている中学校ですが、今のところ順調に推移しております。総合学習の一環である「社会人講演会」もOBの方々の御協力により、生徒は大変良い刺激を受けながら意欲的に取り組んでおります。各教科についても質問が多く出るような大変活発な授業が展開されております。また、千葉高生からも学習活動、部活動の両面からアドバイスを受けており、中学生は大変充実した生活を送っております。

中学校としては、千葉高教

育の根幹をなす「自主・自律」の精神を基本に、すべての教育活動について「自分の頭で考える」「自分たちで協同しながら行動する」よう指導しております。実際、各教科の授業はじめ総合学習や文化祭・体育祭の様子を見ますと、自分たちで自主的に取り組んでいます。今のところその方針は間違っていないと確信しており、今後もこうした方針を堅持しながら指導してまいりたいと考えております。

以上のように中学校は順調な滑り出しですが、高校ではやや心配な現象が見られます。端的に言えば『生徒の変化』です。

一学期に実施した本校職員との面談で、「一年生が変わってきた」と感想を漏らす職員が多くおりました。教師の指導以前の問題として「指示待ち人間の増加」「授業に臨む姿勢が極めて不十分な者の増加」など、高校生としての自覚が足りない生徒が増えつつあるということです。他の学年でも「大人しくなっ

て型破りの生徒が少なくなってきた」との指摘もありました。

私は昔の千葉高生を部活動（水球）をとおしてしか知りませんが、これは由々しき問題だと感じました。確かに以前は「どんなでもない生徒」がいたようです。しかし、指導しにくい（？）彼らも「自主・自律」の精神は決して失うことはなかったのではないかと思います。

ところが、今は「集団に埋もれたがる型どおりで小粒な生徒」とでも言いましょうか、そういう生徒が増加してきたようです。これでは先行き不安で、荒削りだがキラッと光る個性を持った生徒が多く入学してほしいと思うと同時に、入学後の指導もさらに充実させていかなければならないと思っております。

言うまでもなく中高一貫は、教師も含めた中学校と高校のコラボレーションが利点です。今の中学生がこのまま順調に育てば、数年先に今見られるような

高校生に大きなインパクトを与える存在になるであろう。そしてそれは生徒に留まらず教師にとってもインパクトのあるものになるであろうと予想します。

先ほど述べましたように中学生に対して「自分ですべてやる」よう指導していますが、それはかつて千葉高生がやってきたことであると思います。千葉中からの内進生と外の中学校からの

就任にあたって

同窓会副会長 永田忠以

(昭和三十七年卒)

前年度より、増田忠彦前副会長の後任として葛の花会副会長を兼任している永田です。

定時制の灯が消えてより早一年となりつつあります。生涯高校へ転校した二年生の生徒が卒業し葛の花会へお迎えする迄と、今後千葉高同窓会へのパイプ役として増田前副会長

の外進生との間に『化学反応』が起きるのではないか、さらにその反応がどんなものになるのか密かに期待している所です。

終わりに、同窓会の皆様のみすすの御発展と御健勝を祈念いたしますとともに、今後とも教職員一同、生徒のために最善を尽くす所存ですので、本校の教育活動へ御支援・御協力をお願い申し上げます。

す。何分ともよろしくお願い申し上げます。

今後も定時制の卒業生の集り葛の花会と同様に千葉高等学校同窓会会員として会の発展と母校の為に微力ながらお役に立ちたく存じます。

千葉高定時制の入学生はいませんが、卒業した多くの同窓生と生涯高校へ転学した二年年の卒業生をよろしくお願い重ねて申し上げ自己紹介と私の心意をお伝えして失礼いたします。又のちほど。

名簿を買って

ください!!

同窓会事務局長 阿佐幸雄

(昭和三十五年卒)

一昨年、九月より準備をしていました、「130周年版同窓会名簿」ですが、発行予定が大幅に遅れてしまいました。

昨年夏に「多目的ハウス建設」という難題が出現しました。

寄付を頂くには住所判明の会員二万二千余名に通知を出す必要があります、丁度名簿発行のお知らせをする時期と重なったため、臨時の常任理事会を開催してご意見を伺い、概要案を作成致しました。しかし、霜会長のご挨拶にもありますように、多目的ハウス建設の計画は今回は中止することになりました。

本来であれば、この春には発行するはずでありましたのに、事務局長兼名簿編集委員長が至らぬ為、一年間の延期となって

しまい、誠に申し訳なく深くお詫び申し上げます。

名簿の発行に当って、各年度の編集委員のご協力で名簿の洗い直しがほぼ出来ておりますので、これから努力して早期の発行にこぎ着けたいと思います。

昨年春に同窓会のホームページを作成しましたところ、国内はもとより海外に在住している先輩諸氏からも名簿に対するお問合せがあります。今まで空白であった部分も漸次埋まってまいりましたので、後は名簿を買って頂くだけです。

個人情報保護の問題もあり、今後の発行計画は未定ですので、今回は最後の名簿発行となるかも知れません。

今までに買われた人も、買ったことのない方も、同窓会維持のためにも、どうかお買い求めください。

販売価格は、九、〇〇〇円

(送料・消費税込み)

発行部数は、二、五〇〇部

学 年 短 信

●昭和八年卒

安田 衛

昭和八年卒業の昭八会は永年続けて千葉駅前「日本海」で行われてきたが、先般加地礼太君、吉野平八郎君が亡くなり、又大木亮喜君も昨年十月に亡くなったので、昭和八年卒の生存者は私一人だけになったと思われる。寿命の命ずるままに安らかに今後を過ごして行きたい。

●昭和十一年卒

佐瀬喜一

よわい九十才(卒寿)をすぎ、同級生の友も残り少なくなつた。思えば昭和十一年三月、一七四名の卒業生で、土葉会を盛大に開催したが出席者の漸減により、生き残りの寝たつきりや病院がよい数人の同志を数えるのみになった。私事ではあるが

九十才をすぎてからは、迫りくる死の影におびえたり、同志の友の姿を夢にみることがある。そして残り時間の少ないのを嘆く。でも車椅子(二級)の老妻と二人、ヘルパーの午后からの二時間の助けをかり、段差の少ないいつの住み家の建坪五十五の平屋で、老々介護の毎日である。だが午前中と夜は一人きり。悠々介護にはほど遠い。しかし、せがれの「俊之」(中央町に院長として歯科医院の跡をついでくれた)の所や、食料品店、薬局等に買物に行く必要から、車の免許の更新を、この秋に〇、九の視力ながら獲得。そして寝る時十分間の健康体操と、更科のきれいな水と空気、登る朝日に今日の無事を祈って手を合わせ毎日常である。

●昭和十七年卒

内山 青春

戦后、例年十一月をめどに、同期生会を続けてまいりました

が、会員の高齢化(身体の不調)御世話を頂いた幹事をふくめ、多くの同僚、友人が故人になつてしまった。

昨年は予告もあつて、二十六名の出席があつたが、今後の開催の困難性が予測された。お互いの健康をたしかめ、思い出と、生の喜びを語りあえる極めて意義ある会を重ねて来たが、協議をへて惜しまれつつ会を閉じることに決定された。

私どもは今、ひたすら母校の発展を祈り、この会報編集の労を謝しながら、同期生の動静報告を終えたい。

平成二十年十一月十五日記

●昭和二十年五卒(新葉会)

平野 久夫

第二次世界大戦が終る昭和二十年、母校千葉中を卒業した吾々の仲間も、今や齢八十を越え立派(?)な後期高齢者の顔になった。

年を追うごとに、物故者が増

えるのも誠にやむを得ざる次第である。

平成十九年の秋、傘寿の記念総会を開いた時、集まった仲間から「皆が生きている内は、出来るだけ続けて会を開いてくれ」と要望されたが、世話人もそれなりにくたびれてきて、人数も減ってきているので、一年おきに開催することにした。

今年は秋に、集まれる全員を集めてやるつもりで、ぼつぼつ準備にとりかかるうと思つてゐる。

この会がいつまで続くかは、仲間の気力と体力にかかると。

そこで、ボケないよう、毎月世話人を中心に集つて暮会を開き、楽しく、頭と、胃袋の訓練をしている。

今のところは、まだ当分持ちそうである。



●昭和二十年四卒 禄寿会

吉田昭三

銀杏の木に感謝

私どもの六十回生(禄寿会)の同僚から千葉高グランド東側道路に植えられている銀杏の木の由来を聞かされ、書きとめたいなりました。

昭和十七年から十九年頃はグライダーの練習をする時代でした。学校はグランドの狭隘とグランド内に植えられていた銀杏の木の高さを心配され、グランドを現在の位置まで東側へ拡大し、同時に銀杏の木を移動したそうです。

現在、その銀杏の木は見事な太さになり、腕を回しても届くものではありません。千葉高正門から裏門に通ずる道路にも同様の太さの銀杏があり、同じ時期に植えられたものだと思います。私は数年前からこの道をよく歩かせてもらっていますが、その折、長年、生き抜いてきた銀杏の幹にいつも手で触れて

「ありがとう」と言葉をかけることにしています。この道路に沿う講堂は昭和九年以前に千葉中が旧制高等学校へ昇格する計画の中で建てられたとのこと。この由緒ある講堂とともに銀杏の木に感謝したいです。

千葉高が中高一貫教育校として更なる発展を祈ります。

●昭和二十二年卒

齋藤喜久三

恒例の昭和二十一、二年卒の同期会は六月第一土曜日に早川先生をお迎えして四十名が同級生宅の「ほてい家」に集合、昔と少しも変わらぬ兄貴先生にハッパをかけられ皆生徒に早変わり、話題は専ら千中時代になる。今年は同期の代表朝日新聞社長だった中江利忠君が新聞界では十三年振りと言う日本新聞文化賞受賞記念祝賀を兼ねての同期会なので大いに盛上がった。恒例の応援歌の大合唱では略式校旗が舞い健康と再会を約した。

又三十二年連続の同期会開催に当りその労に應え、堀、齋藤両幹事に同期会より感謝状を贈呈した。

さて来年(平成二十一年)の傘寿同期会は大多数が母校訪問を希望している。思えば卒業してから六十一年母校は姿が変わっても昔と変わらぬものはあの一杯坂の急斜面である、果して齢八十ともなるといくら戦争つ子と頑張つても、押し上げねばならぬ人、手を引張らなくてはならぬ人、タクシー任せの人、想像するだけで楽しい同期



会になりそうである。この年迄色々振り返って見ても印象に残るものはやはり千中時代のみと云うのが共通点の様である。母校では我々の入学当時（昭和十七年）と同じ十二才の千葉中一年生を見たらきつとタイムスリップして我々も同じく一年生の雰囲気ではしゃぐかもしれない。

●昭和二十三年・二十四年卒
(葛城芙美葉会)

安田敬一

今年は卒業60周年記念として母校訪問が実現した。四月十九日午前11時、五十五名の同窓生が続々とつかしい千葉高講堂前に集合。江崎校長と篠崎先生を囲み講堂正面階段で記念撮影、講堂参観し、思い出深い校庭を散策した。全員が60年前に戻り、笑顔の中学生となった。更に、会場をプラザ菜の花に移し、早川先生もかけつけていただき、総計73名の大集会とな



り、古き良き時代を語り、時を忘れて歓談した。昨年、決議した記念イベント①母校訪問に併せ②記念文集の刊行③母校玄関上に校章寄贈（同級生・根岸茂行君による根岸基金充当）もすべて完了。母校の限りなき発展を祈りつつ、一同元氣よく校歌、凱旋歌を歌い散会となった。

●昭和二十五年卒

矢島 肇

恒例となっていますオリンピック年の同期会を四月二十九日に行いました。案内状は一九一名、出席七十七名（喜寿の会に合わせた訳ではありませんが）欠席八十五名、内病欠三十八名でした。その他、既に故人なられた人八十三名、行方不明三十二名、これが同期の概要です。今年は喜寿を迎えた事です。今年「喜寿記念同期会」と銘打ってお互いに喜び合いました。四年毎の会も高齢を理由に短くすべし、の声多く次回は三年後八十歳、

即ち「傘寿記念同期会」を平成二十三年四月二十九日に変更致しました。今回以上の出席を幹事一同祈念致しました。尚、新設中学に伴うOBによる社会人講演会等に微力を尽くそうと話し合っている今日この頃です。

●昭和二十六年卒

久山 敬

われわれ二十六年卒の大部分は、今年数えて喜寿を迎えたが今年の同期会は、五十九名の参加を得て、十月十八日、スカイウインドウズ東天紅にて開催された。永野剛君の司会、幹事代表の挨拶の後、御臨席賜わった早川先生の御挨拶、篠崎先生の御発声で乾盃、約二時間歓談の時を楽しく過した。毎回出席の常連に加えて、卒業以来初めて参加する友もあり、お互に体型、容貌の変化に戸惑ったりしながらも、すぐに昔の仲間に還り談笑に入ることであった。

会のしめくりに、畑昭次君

の音頭で、千葉中校歌、千葉高校歌（われわれは旧千葉中入学、新千葉高卒業であった。）応援歌を合唱、次回の再会を約して午後二時散会した。

●昭和二十七年卒（二七会）

中村作二

我々千葉高二七会の面々は、今春三月で全員「後期高齢者」になります。つまり七十五歳になり、卒業後五十七年を迎えます。我々の大部分の者は昭和二十一年四月に旧制中学に入学し、これが学制改革で最後の旧制中学になりましたので、ちょうど六十年経ったところでまた千葉中学が復活したことになります。

母校の玄関の上の私達が寄贈した高校の校章のわきに、懐かしい中学の校章が掲げられて、感無量なものがあります。

我が二七会は隔年に開催することにしていて、昨年六月には一〇二名が元気に集いました。

●昭和二十九年卒

土岐和男

団結と行動力を自負する二十九卒「福の会」の年間スケジュールが世話人会の手で作成された。

六月二十九日プラザ菜の花で本年も恩師早川先生をお迎えし同級生六十余名の参加を得た中には初参加の人も居たが一同和やかの中にも盛大に進行された。お互いの状況に驚き、喜び励まし合い自分の生き方を見直す機会が同窓会ではないでしょうか、しかし楽しい一日でした。

九月七日恒例となった一泊二日の旅行が施行された。参加者二十一名で健脚を誇る早川先生も参加し草津温泉に宿泊し白根、鬼押出し、軽井沢を散策した。特に天明三年の浅間山の大噴火は景観

をもたらしたが一方で甚大な災害があった事も忘れられない、がしかし食べて笑って歌っての楽しい旅でした。又ゴルフコンペも二回開催し年末には忘年会も予定されています。



●昭和三十五年卒(珊瑚会)

中村重春

珊瑚会の中に「探美会」という
バーチャル集団ができたのは六
年前。もう六十一回も続いてお
り、メンバーは六十余名ですが、
リーダーなし、参加義
務なしという気ままな
集まりなので、参加者
は毎回十数名というこ
ろです。遠い人は静
岡や群馬からも参加し
ています。

有志が目的地を決め
てEメールで呼びか
け、季節の花を目当て
に湘南の丘陵や丹沢に
行くことが多いので
すが、江戸名所めぐり、
横浜散策、さらには美
術館、動物園、観劇な
ど、どこへでも行く自
由さが身上です。

千葉高時代は女子は
どのクラスも一割足ら
ずでしたが、探美会で



は二割三割は当たり前。初めて
参加する人もたちまち昔に戻っ
て打ち解け、電車の中でしゃべ
り、歩きながらしゃべり、居酒
屋でしゃべり、話題が途切れな
いのが長く続いている理由かも
しれません。

●昭和三十六年卒

田那村 宏

母校が百三十年を向かえた年
に、私達は六十五歳を過ぎ、社
会的に夫々第二の人生を歩まれ
ている友人もおりますが、まだ
まだ現職でいる友人も数多くい
ます。

十一月八日、同期会を、京成
ホテルミラマールで開催し、七
十余名の参加があり、遠方の友
や久し振りにお会い出来た友と
も旧交を温めました。石井氏
の乾杯の後、ジャズピアノと
ヴォーカルを楽しみ、近況の披
露では、飯高氏・堀口氏・服部
氏からもありました。

昨年十月には修学旅行再現
で、河口湖方面に二十九名が参
加、青春を満喫。「次は幻の関
西旅行かなあ」が、実現出来そ
うな企画が提案されました。四
月以降、二泊三日(京都・奈良)
幹事は関西在住の小野・樫永氏
です。次の同期会は、卒後五十
周年の予定です。

●昭和三十七年卒

駒井隆子
朝生邦夫

一昨年、還暦を記念しての
ニュージールランド旅行を多数
の参加で実施しました。今年
も三七会の活動は、多方面に
活発に展開されました。

「三七で歩く会」「三七山の
会」は、東海道を歩く企画や
八ヶ岳周辺の登山を楽しみま
した。

「三七ゴルフ会」は春と秋の
コンペ中心に多数の参加を得
ています。「三七旅行の会」は、
夏に源氏物語生誕1000年
の京都に二泊三日の「熟年修学
旅行」を実施しました。

サークル活動では「三七卓球
の会」と「三七囲碁の会」とが、
月に一、二回コミュニケーション
ンターや会員宅で体を動かし、
頭を鍛えています。秋には合
宿などで交流しています。「三
七釣友会」は海釣りを楽しみ、
「三七ヨットの会」は、航行を

楽しみました。

「三七映画を観る会」は、名画を何回か鑑賞し、懇話しました。

お互いの連絡は各サークルのMLを通じてネットを構築しています。二〇〇八年忘年会で今年の活動のまとめをしました。

●昭和四十年定時制卒

OSB会幹事長

谷中勝美

『今年も一泊で開催』

昭和三十六年入学した

時の一年B組の仲間で作った『OSB会』の同窓会を、三月十九／二十日に一泊で、今年はクラブツーリズムのツアーを利用して、飛騨高山の『臥龍温泉・宿泊ホテルひまわり』で開催し八名の参加者がありました。

初日は平湯大滝（氷結の名湯を見物）・飛騨古川（白壁土蔵の町並みを散策）・二日目は飛騨高山（名物朝市や古い町並みを



散策）・白川郷（世界遺産の合掌集落を散策）の思い出多い旅でありました。

夜の宴会では飛騨の郷土料理に舌つづみを打ち、深夜まで語り合い交流を深めることが出来ました。

また、来年も一泊で開催する事を皆んなで約束して散会しました。

平成二十年十月二十六日記

●昭和四十四年卒

森 茂

『逆上がりのすすめ』

実家の物置小屋を片付けていたら、昭和34年、千葉市内の小学校3年の時のクラス文集が出てきた。私の題は『逆上がり』。53人のクラスの53番目にとうとうクルツと回った！その瞬間の喜びを書いた詩である。

ちなみに、この時のクラス担任は、「大車輪」のできる先生であつた(84歳でご健在)。

どうすれば「逆上がり」が出来るようになるのか？答えは簡単である(エヘン)。

「逆上がり」には、三つのコツがある。一つは、重力に逆らって上方に到達するために必要な加速度をつけること。二つ目は、握りに関して、遠心力に耐える握力と、回転のための円滑さを具えた上で、回転に合わせて手首を返すこと。三つ目は、「恐怖心」の克服。

重力に逆らうことは「危険」なことだし（松井秀喜は飛行機が嫌いだとか）、握りを緩め、手首を返すことは、一層「危険」を増すことなのだが…。

さて、これまでの人生五十有余年の経験とシガラミの「重さ」故に「危険だ」と思い決め、断念してしまっている事柄に対して、少し握りを「緩やかに」してみてもどうだろう。「手首を返す」ことによって、新しい展開、あるいは未知の高みに出会うことになりはすまいか？

これまでは敢えて避けてきた「危険」だが、現役を離れ、ある意味で責任の軽い「少年時代」に戻ろうとする今、久しぶりに「逆上がり」（大車輪でも）をしてみたくなりはいないか！

※第四回同期会は、私達が還暦となる2011年2月です。同窓会総会の当番学年でもあります。予定表に御記入下さい。

(2008・12・2記)

●昭和六十一年卒

増田 淳

東京のとある電気街でパソコンを買った帰りに、喫茶店で衣服。店員がメイド服を着て給仕している以外は、いたって普通の店構えだ。と、その中に、オムライスを食べながらパソコンのキーボードを叩いている紳士を発見する。明らかに見覚えのある顔だ。時計の針を戻すのにさほど時間はかからなかった。「やあ、しばらく。」「この店に入ったのも偶然だし、ここで会ったのも全くの偶然だ。」しばしの近況報告タイムとなる。彼は長年の銀行勤務を辞し、すぐ近くのT大学で研究生生活を送っているという。

偶然の再会が、互いの無事と絆を確認するアフタヌーンティータイムへと早変わり、それも何かの縁。追加注文のパフェを食べながら、四十路の身の健闘を讃え合った。

支部だより

☆東京葛城会

副会長 近藤喜久夫
(昭和三十五年卒)

年三回の幹事会を経て第四十九回東京葛城会は、平成二十年十月十六日(木)上野精養軒に於いて、来賓四名を含む一五一名出席の下盛大に開かれました。



楽しい話が花ざかり ご馳走を忘れて

十八時、当番学年の永野明宏幹事(昭和四十九年卒)の開会の辞のあと黙祷に入り、次いで中村浩紹会長(昭和二十九年卒)の挨拶、箕輪正美事務局長(昭和四十四年卒)の会務報告、さらに、江崎俊夫千葉高校長、霜礼次郎同窓会長の来賓挨拶、また、



まだまだ血気盛んです。応援歌の大合唱

四ノ宮義四郎、吉野弘(昭和四十一年卒)両先生を恩師として紹介、川村きみ枝幹事(昭和三十三年卒)の乾杯の音頭で会費、懇談に入りました。

会は、友好的雰囲気の中、和やかに進行しました。その間に恩師よりご挨拶をいただいたり、若手同窓会員の紹介などがありました。

最高潮に達したころ、一同立ち上がり校歌を斉唱、旧制校歌は鈴木定雄先輩(昭和二十五年卒)が、新制校歌は宮崎勝広先輩(昭和二十九年卒)が指揮をとりました。トランペット伴奏は例年通り斉藤喜久三先輩(昭和二十二年卒)が行いました。嶋田政昭氏(昭和四十九年卒)がエールを行った後、次回当番学年の園部創幹事(昭和五十年卒)が閉会の辞を述べ総会は終了しました。

司会・笈田泰之幹事（昭和四十九年卒）

東京葛城会も多士済々です。とりわけ、中村浩紹会長はこのたび「全国人権擁護委員連合会」の会長に就任されました。このことは、ご本人はもとより我が千葉高にとりましても、大変名誉なことであり、同窓生の皆様と共に喜びを分かち合いたいと思います。

また、不肖私が、霜礼次郎、中村浩紹両同窓会長をはじめ同窓会諸氏のご指導を仰ぎ、千葉県議会に於いて、数年来取り組みでまいりました千葉高の中高一貫教育は、平成二十年四月に併設中学校が設置され、公立校として全国に先駆け実施されました。今後、日本をリードし、国際社会に伍していける有為な人材が多数輩出されることを期待して止みません。

☆船橋葛城会

会長 吉岡賢一
（昭和三十五年卒）

船橋葛城会は今年も五月末の

日曜日に開催されました。

参加人員はほぼ例年同様ですが今年、当会はお陰様で設立三十周年を迎えることができました。一度も欠ける事無く継続三十年、これは正に歴代の世話人や裏方さん達のお陰と言えます。

今後どのように続けていくのか、毎年変わらぬテーマではありますが、四七才のアメリカ新大統領の如くチェンジ！ささやかではあっても同窓会として革新や変化が必要でしょう。若い世代にバトンタッチを繰り返す事により、新しい考えや方法が生み出されるものと期待しています。

☆東金葛城会

幹事 岸本雅邦
（昭和三十九年卒）

第三〇回東金葛城会の総会は平成二〇年四月五日東金八鶴亭にて開催されました。当日は十八名の会員の皆様に出席をいただき恒例となっております八鶴湖の夜桜、花火大会、湖畔ライ

トアップ等東金の花見をたっぷり楽しんで有意義な時を過ごす事ができました。又当日は総会に先だってゴルフコンペを久し振りに再開しました。東金の李

美の森ゴルフクラブにて二組で行ない、メタボ腹の解消と親睦に努めました。ゴルフは年令に関係なく楽しめますので今後も続けていくつもりです。会の現況ですが本会の木村卓会長（昭和三十一年卒）は東金市教育長を永年つとめ平成二〇年三月で退任となり更に新境地開拓に意欲を燃やしております。

次回開催は平成二十一年四月四日（土）の予定です。当日はゴルフコンペも併せて開催し懇親を深めたいと思います。

☆長生茂原葛城会

会長 永野 剛
（昭和二十六年卒）

長生茂原葛城会は今年で設立以来五十三回目の総会になりました。昭和三十八年、進学・就職で離れていた地元に戻って、当初より事務局だった同期の佐々

●同窓会では、同期会や支部、個人からの寄附を受付けております。

●寄付頂いた方には同窓会報・同窓会総会のご案内などを送らせて頂き、寄付者名を同窓会報やホームページに掲載いたします。（不掲載希望も可）なお、お振込みの節は、卒年とお名前を明記して下さいますようお願い致します。

●千葉銀行 長洲支店 普通
店番号…0005
口座No…3227188

●千葉興業銀行 千葉支店 普通
店番号…1111
口座No…5519371

●京葉銀行 本町支店 普通
店番号…4111
口座No…9865501

●千葉信用金庫 都町支店 普通
店番号…0023
口座No…0702279

◆口座名義（4行全て同じです）

千葉県立千葉高等学校
同窓会会長 霜 禮次郎

●ゆうちょ銀行 振替口座No.

00140161336678
口座名…千葉県立千葉高等学校
校同窓会

木稔君の手伝いのつもりで参加したのが十七回だった。当時、会員皆さんは昭和一桁卒の大先輩で、我等幹事二人は息子か孫の扱いだった。平成二年、佐々木君を亡くし、些か幹事疲れし、平成十六年、山口光済氏（三十九年卒）に事務局を引き受けて頂いた。その際、会長にとの話は固辞、同期の常泉吉朗君にお願いした。今年、彼よりそろそろ変われとのことで、「やっと会長になれた。」と出席皆さんの笑いを頂いた。向井・近藤両先輩はじめ会員皆さん、よろしく。

「市原悦子さん、 母校でトークショー」

女優、市原悦子さん（昭和二十九年卒）が、昨年十一月二日に、本校講堂で、トークショーをしてくださいました。これは当時の演劇部先輩の、安藤伸治さんと小林健一さん（昭和二十八年卒）が、母校の演劇部の為



にということ、お骨折りくださり、実現したものです。美しい濃いブルーの服を纏ってステージに立たれた市原さんは、末広中や千葉高の学生時代の思い出や、演劇について、楽しいお話をしてください、また、幼い子供たちの詩の朗読や、最後に野坂昭如氏の「年老いた雌狐と女の子」の朗読をされ、聴衆の生徒、保護者、職員はすっかり魅了されました。ショーのあと、現役演劇部員たちひとりひとりに、温かくも厳しい激励の言葉をかけてくださり、感激して涙する生徒もいました。

（五木田記）

葛城だより

◎平成二十年度受章者

心からお祝い申し上げます。

瑞宝小綬章 浜田修一（昭22）
瑞宝小綬章 清宮春男（昭27）
瑞宝中綬章 奥山 浩（昭28）
旭日小綬章 助 崇一（昭30）
瑞宝小綬章 咲山忠男（昭30）
旭日双光章 鈴木宏祐（昭31）
旭日双光章 鈴木弘祐（昭31）

◎逝去者（役員・理事）

謹んでご冥福をお祈りします。

（ご連絡のあった方のみ掲載）

大木亮喜（昭8）20年10月23日
越川 衛（昭18）20年3月16日
中島信舟（昭25）20年11月19日

〈卒業年順〉

◎寄付者

心からお礼申し上げます。

昭和二十年四卒同期会（禄寿会）

20,000円

昭和四十一年卒同期会

100,000円

佐瀬喜一（昭11）

80円切手を100枚

〈敬称略〉

編集後記

私が高校時代に先輩から学んだことは、精神的な強靱さが生み出す美しさである。今まで口にはしなかったけれど、先輩はかつこよかった。

- ・冬でもワイシャツ一枚
- ・朝一番に黙って座っている
- ・もう一周しようと決める主将
- ・少し歩こう、教えてやるから
- ・一時間でも出られぬ迷路
- ・センスのよい女装大会

生きる方向性を明確にしてくれ、狭き門より入ることを教えてくれた。

ユーモアをもって、他人に優しく生きろと教えてくれた。

私は思う。静かに様子をみている本物の先輩に立ち上がって欲しい、と。

石川恭史（昭53）

今年度も多くの方々に原稿執筆にご協力頂き、誠にありがとうございました。

五木田 純（昭48）